

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190100158		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター鍋島 グループホームニチイのほほえみ		
所在地	佐賀市鍋島3丁目14-21		
自己評価作成日	平成27年3月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成27年3月20日	外部評価確定日	平成27年4月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>その人らしさを、どうぞいつまでも。「お客様のありのままを受け止め、生きてこられた大切な思い出とともにその人らしく、豊かに過ごしていただきたい。」経営母体である(株)ニチイ学館の理念のもとで入居者様一人ひとりの尊厳を重んじた接遇で経営しています。 楽しいことがたくさんある毎日を、明るい笑顔で心が通う援助をいたします。お客様が一人ひとり明るく楽しい生活が出来るようにケアスタッフが側面からサポートいたします。◎一緒に近所のお買い物や散歩に出かけます。街の人々との会話や、道端の小さな発見も楽しめます。◎ホームの敷地内にできる菜園を設けています。野菜や花の成長は感動につながります。◎絵画、折り紙、書道、塗り絵等の創作や、カラオケ、器楽演奏、童話や楽しいリハビリなど趣味や娯楽などを生かした生活リハビリを行っています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>「地域に貢献したい」という代表者の思いから開設された事業所は、11年目を迎えている。地域との結び付きも益々深まり、地元自治会の一構成員として、地域の中にすっかり溶け込んでいる。 利用者は、人格や人間性を尊重し、権利を擁護しながら、笑顔で優しく毎日の暮らしを支援する職員に見守られながら、自分らしく毎日を暮らしている。職員の「お客様に毎日を楽しく暮らしていただきたい。そのための援助である。」という意識と支援は、利用者の穏やかな表情となって現れている。また、家族にとっても何時でも面会に訪れ、何でも相談しやすい事業所でもある。 近くの小学校が授業として取り組んでいる事業所との交流会は、利用者にとって楽しみの一つである。 リビングの床暖房、二重のガラス窓は、室内を明るくし、和室と相まって、静かな落ち着いたある安心で快適な住まいとなっている。利用者の各居室も使い慣れた物や、気に入ったもので構成され、実にその方らしく、ゆっくりと過ごせる所になっている。 セラピー犬の導入は、動物が好きな利用者にも心の癒しとなっている。 協力医療機関との連携を中心とした健康管理と医療体制は、利用者と家族に安心感を抱かせている。</p>

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価/ユニットA(大地)	自己評価/ユニットB(キララ)	外部評価	
			(事業所記入欄)	(事業所記入欄)	(評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「社是」「経営理念」を掲示し、毎日全員で唱和を行い共有している。また「社是」「経営理念」ののっとして日々の業務で実践している。	「社是」「経営理念」を掲示し、毎日全員で唱和を行い共有している。また「社是」「経営理念」ののっとして日々の業務で実践している。	理念を掲示、唱和するだけでなく、定例の会議や打ち合わせ、日々の支援の中で理念を意識し、その実現を目指している。管理者による利用者にとって何が必要かとの指導も行われており、職員には理念の共有が出来ている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	スーパーでの買い物や、散歩を通じて地域の方々と交流や挨拶をしたり、施設近辺道路の空き缶拾いや、清掃を実施している。また近辺の小学生との交流会も行い、ふれあいの時間となっている。	スーパーでの買い物や、散歩を通じて地域の方々と交流や挨拶をしたり、施設近辺道路の空き缶拾いや、清掃を実施している。また近辺の小学生との交流会も行い、ふれあいの時間となっている。	立地条件の良さを生かしつつ、事業所の開設以来、地域とは積極的に関わり合いを持っている。地域の自治会に所属し、作業や祭り等の催し事に職員も参加している。近くの小学校と授業の一環としての交流会も行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	初任者研修実習や高校生の職場体験を受け入れ、施設を開放したりして認知症の理解を深めたり、自治会長や民生委員に運営推進会議のメンバーに入ってもらっている。	初任者研修実習や高校生の職場体験を受け入れ、施設を開放したりして認知症の理解を深めたり、自治会長や民生委員に運営推進会議のメンバーに入ってもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回必ず実施、ホームの近況報告や行事の案内など行ったり、ご家族からの意見や質問を受けたりして、運営に協力していただいている。また地域包括支援センターからも参加してもらっている。	2ヶ月に1回必ず実施、ホームの近況報告や行事の案内など行ったり、ご家族からの意見や質問を受けたりして、運営に協力していただいている。また地域包括支援センターからも参加してもらっている。	地域に開かれた質の高いサービスの提供を目的にして、内容の濃い会議になっている。介護保険改定に伴う課題、消費税に伴う食事に関すること、外出に関する理解、職員の人事異動、その他多岐にわたっての話し合いがもたれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	中部広域連合に出向いていたり、地域包括センターの「おたっしや本舗鍋島」と蜜に連絡を取り合い協力関係を築いている。	中部広域連合に出向いていたり、地域包括センターの「おたっしや本舗鍋島」と蜜に連絡を取り合い協力関係を築いている。	事業所の開設以来、行政の福祉担当課とは情報交換、利用者の実情、運営上の課題の共有等、緊密な関係が築かれている。地域資源の活用、地域への貢献についても協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームミーティングで身体拘束についての勉強会を実施したり、絶対に身体拘束をしないことをスタッフ一人ひとりに浸透させている。	ホームミーティングで身体拘束についての勉強会を実施したり、絶対に身体拘束をしないことをスタッフ一人ひとりに浸透させている。	運営規程や重要事項説明書にも身体拘束をしない介護を謳っており、これまで身体拘束の事例はない。職員は、研修会等を通じて身体拘束をしないケアについての意識を一段と高めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社全体で虐待防止に努めており、ホームミーティングで研修も行っている。ニチイでは「虐待を、しない、させない、見逃さない」をスローガンにスタッフ同士が相互監視をしている。	会社全体で虐待防止に努めており、ホームミーティングで研修も行っている。ニチイでは「虐待を、しない、させない、見逃さない」をスローガンにスタッフ同士が相互監視をしている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(大地)	自己評価／ユニットB(キララ)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今まで青年後見人制度の対象入居者はいませんでした。今後そういったニーズが出てくることも予想されるので、研修会や勉強会を通して理解を深める。	今まで青年後見人制度の対象入居者はいませんでした。今後そういったニーズが出てくることも予想されるので、研修会や勉強会を通して理解を深める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、ご家族と契約書、重要事項説明書等の読み合わせを行い、不安や疑問を取り除いてから、契約を締結している。	契約時に、ご家族と契約書、重要事項説明書等の読み合わせを行い、不安や疑問を取り除いてから、契約を締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時に気軽に話していただけるように取り組んでいる。スタッフからこえかけしている。入居者に関することはケアプランに取り入れる。	運営推進会議や面会時に気軽に話していただけるように取り組んでいる。スタッフからこえかけしている。入居者に関することはケアプランに取り入れる。	入居時における職員の真摯な対応や、面会時に於いての気軽な声かけに、家族は相談したり要望のしやすさを感じている。独自にアンケートも実施して、利用者や家族の満足度を調査し具体的に、運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者がスタッフと個人面談を行い職員の意見や提案を聞くようにしている。また会議等でも職員の疑問や意見を聞くような機会を設ける。	管理者がスタッフと個人面談を行い職員の意見や提案を聞くようにしている。また会議等でも職員の疑問や意見を聞くような機会を設ける。	管理者とスタッフ間、また、職員同士は互いに意思疎通が出来ている。職員の提案は支援に活かされている。また、外部での研修希望、年次休暇、勤務の割り振り、資格の習得なども運営面に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や、実績、勤務状況に応じて賞与や賃金アップに繋がるようにしている。また資格習得に関しても手当てとして支給するシステムになっている。	職員の努力や、実績、勤務状況に応じて賞与や賃金アップに繋がるようにしている。また資格習得に関しても手当てとして支給するシステムになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や計画作成担当者、ユニットリーダーを養成するテクニカル研修、管理者研修、実践者研修等、必要に応じ受講している。	管理者や計画作成担当者、ユニットリーダーを養成するテクニカル研修、管理者研修、実践者研修等、必要に応じ受講している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の高齢者施設や業者、医療機関との交流を図り情報交換や助言を受けたりしている。地域包括が主催するネットワーク会議にも参加して交流を図っている。	地域の高齢者施設や業者、医療機関との交流を図り情報交換や助言を受けたりしている。地域包括が主催するネットワーク会議にも参加して交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(大地)	自己評価／ユニットB(キララ)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前訪問し入居者の話や質問に傾聴し答えることで本人の不安を解消している。また事前にアセスメントを取ることで職員との受け入れ態勢を整える。	入居前に事前訪問し入居者の話や質問に傾聴し答えることで本人の不安を解消している。また事前にアセスメントを取ることで職員との受け入れ態勢を整える。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の事前訪問や見学会を通じ、入居にあたっての不安解消に努める。またその際にも要望等はケアプランに反映させる。	入居前の事前訪問や見学会を通じ、入居にあたっての不安解消に努める。またその際にも要望等はケアプランに反映させる。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居にあたって、ご家族や入居者にとって何が必要なのか、身体状況を踏まえ必要なサービス提供に努めている。満室などのときは他の事業所の紹介も行っている。	入居にあたって、ご家族や入居者にとって何が必要なのか、身体状況を踏まえ必要なサービス提供に努めている。満室などのときは他の事業所の紹介も行っている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	大きな家族(ホーム)としての信頼関係を築き24時間入居者を支えていくことを理解してもらうとともに、自立支援の確立を目指し入居者にも相互扶助の目標を持っていただく。	大きな家族(ホーム)としての信頼関係を築き24時間入居者を支えていくことを理解してもらうとともに、自立支援の確立を目指し入居者にも相互扶助の目標を持っていただく。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の体調を含め日常生活状況を面会時やケアプラン作成時に連絡しながら、入居者を共に支えていく信頼関係を築く。	入居者の体調を含め日常生活状況を面会時やケアプラン作成時に連絡しながら、入居者を共に支えていく信頼関係を築く。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前のアセスメントにより入居者の大事にされている物や好みを把握し入居者には、他の入居者との関係を良好に保てるように援助する。また面会や、外出、電話を利用し今までの関係を保つようにする。	入居前のアセスメントにより入居者の大事にされている物や好みを把握し入居者には、他の入居者との関係を良好に保てるように援助する。また面会や、外出、電話を利用し今までの関係を保つようにする。	入居時の諸情報や入居後には利用者や家族から新しい情報をもらい、これまでの人生や人、所との関わりについての把握ができています。馴染みの美容室や外食等の外出、知人に面会に来てもらったり、手紙を書く等の支援もある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操やレクリエーションを通じて他の入居者との関わりを円滑にする。また水分補給や入居者同士が気軽にリビングで共有できて会話ができるように援助する。	体操やレクリエーションを通じて他の入居者との関わりを円滑にする。また水分補給や入居者同士が気軽にリビングで共有できて会話ができるように援助する。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(大地)	自己評価／ユニットB(キララ)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期の入院退去の契約終了の場合でも退去時に気軽に相談があれば連絡できるように説明する。	長期の入院退去の契約終了の場合でも退去時に気軽に相談があれば連絡できるように説明する。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員を担当制にし、入居者の意向や希望を吸い上げるようにする。ご家族と連携し、できるだけ希望に添えるように支援する。	職員を担当制にし、入居者の意向や希望を吸い上げるようにする。ご家族と連携し、できるだけ希望に添えるように支援する。	担当制は、利用者の思いをより細やかに把握するのに極めて有効で、信頼関係も生まれている。事前の情報からだけでなく、日常の暮らしの中での会話、つぶやき、表情、動作等からも把握に努めている。利用者の思いや意向は、全職員が共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、ご家族や本人からいろいろ話を伺い情報を共有し支援を行っていく。また生活をしていかれながら、コミュニケーションを図り、ニーズを引き出していく。	入居前に、ご家族や本人からいろいろ話を伺い情報を共有し支援を行っていく。また生活をしていかれながら、コミュニケーションを図り、ニーズを引き出していく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者に合った生活のリズムを把握し身体状況に応じた生活を送れるように支援する。	入居者に合った生活のリズムを把握し身体状況に応じた生活を送れるように支援する。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスの中で、日々の状況や身体状況を把握し、またご家族の意見を取り入れて介護計画にも反映させている。	カンファレンスの中で、日々の状況や身体状況を把握し、またご家族の意見を取り入れて介護計画にも反映させている。	本人や家族の生活に関する意向を踏まえて、援助内容も具体的で実行可能な計画が立案されている。計画書は、家族と話し合い、十分に納得してもらっている。評価、計画の見直しもきちんと行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録により体調の変化や食事量、睡眠、排泄回数、水分摂取量までわかり、体調管理に利用している。また介護計画にも反映させている。	個別の介護記録により体調の変化や食事量、睡眠、排泄回数、水分摂取量までわかり、体調管理に利用している。また介護計画にも反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族、本人の意向を優先し、さまざまな意向があるときでも、できるだけ尊重しながら対応している。	ご家族、本人の意向を優先し、さまざまな意向があるときでも、できるだけ尊重しながら対応している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(大地)	自己評価／ユニットB(キララ)	外部評価	
			(事業所記入欄)	(事業所記入欄)	(評価機関記入欄)	次のステップに向けて期待したい内容
			実施状況	実施状況	実施状況	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練や消防署からの指導や交通講習で警察から話に来ていただいたり地域資源を利用しながら、安全で豊かな暮らしをサポートしている。	避難訓練や消防署からの指導や交通講習で警察から話に来ていただいたり地域資源を利用しながら、安全で豊かな暮らしをサポートしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に入居時にご家族と話し合い、かかりつけの病院を希望される方は受診の援助を行っている。また協力病院は往診や緊急対応引き受けていただいている。	基本的に入居時にご家族と話し合い、かかりつけの病院を希望される方は受診の援助を行っている。また協力病院は往診や緊急対応引き受けていただいている。	利用者や家族の希望する病院での受診を優先している。協力医療機関とは、24時間何時でも相談出来る体制にある。精神科、内科の往診もある。病院受診には職員も同行し、その結果もきちんと把握し、家族にも報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日2回のバイタルチェックを行い管理者(看護師)に報告し、医療機関や、訪問看護との連携を行い適切な対応を行っている。	毎日2回のバイタルチェックを行い管理者(看護師)に報告し、医療機関や、訪問看護との連携を行い適切な対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はスタッフが準備、付き添いを行い、病院に情報提供している。また退院時も必ずスタッフが対応し退院後の支援が円滑に行くように努めている。	入院時はスタッフが準備、付き添いを行い、病院に情報提供している。また退院時も必ずスタッフが対応し退院後の支援が円滑に行くように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の意向を取り入れながら、医療機関と訪問看護と連携を図り、ホームの中で生活が継続できるよう援助を行っていく。また介護計画にも反映させていく。	ご家族の意向を取り入れながら、医療機関と訪問看護と連携を図り、ホームの中で生活が継続できるよう援助を行っていく。また介護計画にも反映させていく。	運営規程の条項にも謳っており、契約時に家族と納得のいく説明が行われている。看取りの指針もあり、家族や主治医と状況に応じて緊密に連絡を取り合いながら支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や急変時に備えマニュアルを作成し入居者の異常があったときには迅速に対応できるように努めている。また外部徘徊などについても連絡網を準備している。	緊急時や急変時に備えマニュアルを作成し入居者の異常があったときには迅速に対応できるように努めている。また外部徘徊などについても連絡網を準備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回実施している。また避難場所の確保や、非常食、簡易トイレ、水など災害時の対策も準備している。地元の民生委員や自治会とも避難訓練を行っている。	避難訓練を年2回実施している。また避難場所の確保や、非常食、簡易トイレ、水など災害時の対策も準備している。地元の民生委員や自治会とも避難訓練を行っている。	地域住民や民生委員の協力や消防署の指導を受けて避難訓練が行われている。夜間の火災発生時の想定で、自動通報装置、災害対策マニュアル、実際の避難経路等を確認しながら訓練をしている。非常時に備えての備蓄もあり、飲料水等の入れ替えも出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(大地)	自己評価／ユニットB(キララ)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりに合ったケアを行い、尊厳と人格を守りつつ、全員個室対応しプライバシーの確保と安全を提供する。	入居者一人ひとりに合ったケアを行い、尊厳と人格を守りつつ、全員個室対応しプライバシーの確保と安全を提供する。	重要事項説明書にも利用者の権利として、人格の尊重、安心と尊厳のある生活が保障されている。接遇一つを見ても、職員が如何にその方の尊厳を尊重しているかが伺える。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が入居者と接しながら、ニーズを引き出し、入居者の意見を聞きながら自己決定できるように支援する。	職員が入居者と接しながら、ニーズを引き出し、入居者の意見を聞きながら自己決定できるように支援する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務の流れと、入居者の希望を融合しながら、希望に添うように支援する。	業務の流れと、入居者の希望を融合しながら、希望に添うように支援する。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	容姿、口腔ケア、髭剃り、化粧、服装など入居者の自己決定と、職員の支援で毎日の清潔を確保している。	容姿、口腔ケア、髭剃り、化粧、服装など入居者の自己決定と、職員の支援で毎日の清潔を確保している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の嗜好や、希望、季節のものなどを取り入れながら食を楽しんでもらっている。また配膳や食器拭きなどを入居者にも協力していただき日常生活観を持っていただいている。	入居者の嗜好や、希望、季節のものなどを取り入れながら食を楽しんでもらっている。また配膳や食器拭きなどを入居者にも協力していただき日常生活観を持っていただいている。	穏やかな食事風景で、職員はそれとなく見守りながら支援している。台所からの調理の匂いや、まな板や食器のふれ合う音が家庭的である。献立表は管理栄養士が作成しているが、事業所で独自にアレンジしている。食材の買い物も毎日行い、利用者と一緒に行くこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事摂取量や、毎日の水分摂取量をチェックして、必要に応じて刻み食やミキサー食にしたり、ゼリーにして水分補給を行っている。	毎食の食事摂取量や、毎日の水分摂取量をチェックして、必要に応じて刻み食やミキサー食にしたり、ゼリーにして水分補給を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員、毎食後の口腔ケアを行い、入居者の能力に応じ、介助を支援している。また定期的に歯科受診を行えるようにしている。	全員、毎食後の口腔ケアを行い、入居者の能力に応じ、介助を支援している。また定期的に歯科受診を行えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(大地)	自己評価／ユニットB(キララ)	外部評価	
			(事業所記入欄)	(事業所記入欄)	(評価機関記入欄)	次のステップに向けて期待したい内容
			実施状況	実施状況	実施状況	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄、排便の有無や回数をチェックして、健康管理している。また排泄時の支援も一人ひとりの状態に応じて支援を統一している。(オムツの方も日中はトイレに座っていただき排泄を促す)	排泄、排便の有無や回数をチェックして、健康管理している。また排泄時の支援も一人ひとりの状態に応じて支援を統一している。(オムツの方も日中はトイレに座っていただき排泄を促す)	排泄チェック表や細かい観察によって、一人ひとりの排泄の習慣が把握されている。ポータブルトイレを使用されている方も、夜間だけの使用である。自分で歩いてトイレに行ける様になった利用者もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の確保を行い、適度の運動で便秘を予防している。また毎日の排便チェックで排便回数を確認し、必要に応じて医師の指示を仰ぐ。	水分量の確保を行い、適度の運動で便秘を予防している。また毎日の排便チェックで排便回数を確認し、必要に応じて医師の指示を仰ぐ。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者の希望に添い、入浴回数や時間を支援する。(毎日入浴は実施)状況に応じ清拭も行う。	入居者の希望に添い、入浴回数や時間を支援する。(毎日入浴は実施)状況に応じ清拭も行う。	二日毎の入浴であるが、毎日入浴の準備は出来ており、希望する方は毎日でも入浴できる。各人に応じたゆっくりとした入浴である。入浴をおっくうがる方には、無理強いせず、気分を変えて入浴に導いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者に応じ就寝時間を対応。寝付けない入居者はリビングにて水分補給をしていただいたり、職員と話をし落ち着いてから休んでいただいている。	入居者に応じ就寝時間を対応。寝付けない入居者はリビングにて水分補給をしていただいたり、職員と話をし落ち着いてから休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ニチイ全体で誤薬に対する取り組みを実施している。毎回複数の職員で薬のセットから飲み込み確認等の支援を行っている。	ニチイ全体で誤薬に対する取り組みを実施している。毎回複数の職員で薬のセットから飲み込み確認等の支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の能力に応じ、趣味や特技を生かしてもらっている。(手芸や絵、習字等)また買い物や散歩なども入居者と一緒に行っている。	入居者の能力に応じ、趣味や特技を生かしてもらっている。(手芸や絵、習字等)また買い物や散歩なども入居者と一緒に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物や散歩など日常生活の中で外出の機会を設けている。また個人の希望があるときは家族と連携し本人の希望に添えるようにする。	買い物や散歩など日常生活の中で外出の機会を設けている。また個人の希望があるときは家族と連携し本人の希望に添えるようにする。	近くの公園までや広くて安全な歩道を利用した散歩、また、買い物に出かけることが多い。コスモス園、花見、カニや佐賀牛等の食事など希望や年間の計画に沿った外出もある。家族の協力も得ている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(大地) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(キララ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる方は、一部個人で保管されているが、理容費、医療費などの支払いはお小遣い管理を事務所でやっている。時にはお店に行き職員と一緒に買い物をして支払いをしてもらっている。	金銭管理ができる方は、一部個人で保管されているが、理容費、医療費などの支払いはお小遣い管理を事務所でやっている。時にはお店に行き職員と一緒に買い物をして支払いをもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は、本人が書かれたもの物は基本的に投函している。また職員がだい代筆を行うときもある。電話に関しては希望があれば事務所の電話を使用してもらっている。	手紙は、本人が書かれたもの物は基本的に投函している。また職員がだい代筆を行うときもある。電話に関しては希望があれば事務所の電話を使用してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内を明るくし、毎日の共有空間は整理整頓と消毒を行い衛生に気をつけている。また入居者の作品や趣味の作品やレクの作品を掲示して楽しんでもらっている。	室内を明るくし、毎日の共有空間は整理整頓と消毒を行い衛生に気をつけている。また入居者の作品や趣味の作品やレクの作品を掲示して楽しんでもらっている。	明るい室内と床暖房、二重窓の設備は快適な環境である。畳の間、テラス、トイレの適切な配置、広い浴室など随所に心地よく過ごせる場所がある。ネコヤナギがそれとなく花瓶にさしてあり、季節を感じさせてくれる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにて職員や入居者同士が気軽に話をしたり、お茶をしたり、気軽に利用できる場所を提供している。また共用部分に和室があるので利用してもらっている。	リビングにて職員や入居者同士が気軽に話をしたり、お茶をしたり、気軽に利用できる場所を提供している。また共用部分に和室があるので利用してもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、入居者と家族が相談し使い慣れたものや、思い入れのある品を飾ってもらいそう人らしさ。個性を大事にして居室内を快適に過ごしてもらおう。	居室内は、入居者と家族が相談し使い慣れたものや、思い入れのある品を飾ってもらいそう人らしさ。個性を大事にして居室内を快適に過ごしてもらおう。	各居室がその人らしく何時までもゆっくりと落ち着いて過ごせる場所になっている。長年使ってきた机や小さな筆筒、テレビ、冷蔵庫、趣味の手芸道具、書道の作品、新聞や本、小さな仏壇や御主人の写真、その他色々なものがある。それぞれが大切に置かれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関はスロープを設置し、ホーム内は段差がないバリアフリーになっている。また廊下や浴室、トイレにも手すりを設置し入居者の自立を支援しています。	玄関はスロープを設置し、ホーム内は段差がないバリアフリーになっている。また廊下や浴室、トイレにも手すりを設置し入居者の自立を支援しています。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
↓ 該当するものに○印をつけてください				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない